

サンフランシスコ時代の友人

桜井孝身

25年前、私達はサンフランシスコで「コンニャク」コミュニオンをやり私はそのまえの3年間合計6年サンフランシスコにいた。その頃の友人松本平（画家）アール・ロプレス（詩人）マイク・ギルバード（画家）前号に寄稿して下さった篠塚安夫の諸先生がたに原稿をいただいて今、絶えない友情の不思議さを感じています。全く私にとって嬉しいことです。他にも親しくしている友人が沢山おられるので死ぬ前に「もう一回、大言壮語の大法螺を吹いてみたい」衝動にかられます。いままでは志し破れて全ては失敗に終わっています。目論見は一つも実現しませんでした。私の絵を描く仕事と友人はご迷惑おかけしたにも関わらず今日にいたるもつづいていることは不思議な気がします。

当時は私も友人たちも貧乏でした。でもガロンの安ぶどう酒を飲み議論し大言壮語の夢を語りあいました。私にとってそれは大変な肥やしになりました。いま少々残念なのは70歳という高齢からくる体力の衰えだけで不思議と言おうか奇妙きてれつと言うべきなのか、あれほど売れなかった私の絵がたまたま売れるという奇現象を呈してきました。そして私以上に若い友人達はいま力をつけています。幸い、どうしてか私には若い友人が昔から多かった。その最も若い友人もいまでは40歳だいはなっていますが女も男も人生の真っ盛りです。希望が実現するということの意味は哲学的なので私には良くわかりませんが少なくともアメリカで使ったお金ぐらいは取り戻したいというアジア的意欲には燃えています。別言すれば10倍という魔術。今、不景気といわれる日本にアジア各国から出稼ぎの密入国者が絶えずここ九州では毎日のように報じられています。私には全く笑うことができません。3年前、一月の給料3万円、アメリカ人は30万円とほぼ10倍でした。為替は360円、私は日本から新聞紙にくるんで送ってもらった一万円札をサンフランシスコ、ニューヨーク、パリの銀行で両替しました。ほぼ400円が1ドルでした。10倍という差は人をくるわせませす。先日のNHKの放送で日本の大手銀行の土地をアメリカ人が1割の値段で買っていると報じています。いい悪いは別として戦争は物量戦であることは誰れでもが知っています。経済、この10倍の魔術にあつては身の危険を省みず粗末な船にのって密航して来る。いや、私は密航にも似た気持ちで行ったことでは全く同様なのです。日本では売れないがアメリカでは売れるに違いないと確信して行った。しかし絵は特殊、アメリカ人でさえ売れない絵が密航してきた私ごときは問題にならないことを嫌というほど思い知らされた。その関係は殆ど変わつてはいないが係数は変化している。と私には思える。フランスでもそうだけど美術館入場者は随分と増えた。その経済的意味あいは文化にも深く食い込んでいることは確かなことだが10倍という人間を狂わせる経済危険線が絵画の売買に入ったのがバルブと言われたときの日本であったのでしょうか。猫も杓子も美術品、蚤の市の古物にいたるまで日本にもって行けば10倍になった。事実、私の友

人も何億と動かした人が何人もいる。さすがに私の絵は売れなかった。しかしながらそういう画商、人物が衰れんでくれてある程度、私でさえ潤ったことは事実である。この危険な経済線をどう調節するか？現在の日本経済の停滞にみるよう何処まで水膨れなのか？、まさか10分の1に絞り込めば勿論アジアからの密入国者はなくなるだろう。今の10分の1の生活とは十分私達の老人には分かるが若い人には到底理解できない惨憺たるもの。専門家でもない私がいくら考えも何の足しにもならないことです。それにしても。

何故フランスか、何故アメリカか、なぜ日本かという経済を離れることは出来ない相談なのだが、宗教、風土、文化の問題は現在も永遠に解決できない？として残ります。となりますと若き日も老いた今も同じ思い、目的、目標、戦略は少しも前進もなく不動のものとして眼前に立ち塞がっています。しかし多くの友人を得たと共にサンフランシスコで全く生まれて初めての幻覚剤を知りました。幻覚は直ちに精神分析に直結します。フロイドは当然ながらユングにいたっては錬金術、魔術、宗教と拡大して大きく美術の世界に進出してきます。シュルレアリスムは理論として素晴らしいけど、拡大された夢としか見れないので、何だか痒いところに手が届かない。ところが幻覚剤は白昼、現実同様に見て感じる事ができる。私は本当におどろいた。そして宗教が、迷信が存在し得る事実を知った。それにしても、だからどうした。ということもない。そのすべてを除外しても本能は一体何ものなのか。いまの私が前進したいということは人間の本能なのか、いまだに消えない。サンフランシスコにいる友人達をしのんではまだこんな幻覚を見ます。相変わらず私の大言壮語は直ってはいません。本当に何かやりたいと思っています。そんな夢を見させてくれる友人達の原稿です。まさにもう一つの幻覚剤なんでしょう。